

【現代風“組織一丸”マネジメント】シリーズ

競争に勝ち残る“現場の知恵”を社内で共有！

難しい人間関係の基本的な部分を見るための『まねじめんと』

【社内の上下関係だけでは機能しないこと】

従業員間にも、確かに役職上の“上下関係”があります。業務内容によっては、年齢や経験の長さで“上下関係”が、自然に形成されるかも知れません。

しかし、こうした社内の“上下関係”だけでは、なかなかスムーズに進まないものがあるようなのです。その一つが**社内の知恵の共有**です。

【組織内の知恵の共有を阻害する要因】

業務に関して特別な知恵や方法があっても、それを持つ従業員にとっては、“個人的”な知恵や見識でしかありません。また、その知恵等を教わるサイドの従業員も、『その方法は有効だと思うけれども、会社の方針に沿っているのか』という不安や疑念が付きまとうことがあるでしょう。

【知恵の流れは水の流れより複雑】

知っている人から知らない人へ、優秀な人から勉強途上の人へという“知恵や見識の流れ”は、水の流れのように簡単に進まないのが普通かも知れないのです。

そのため、なかなか社内の“知恵”が共有されないと感じる事態が生じるのでしょう。

【激しい競争の中で求められるもの】

しかし、ますます競争が激しくなり、取引先や顧客の要望も厳しくなる昨今、“現場”で培われた“知恵”や“対処法”は、ぜひ全社に広め、組織力の“底上げ”を図りたいところです。

確かに、“うまく行っている”部署や人材の“方法”や“考え方”を、その他の従業員の皆様が学び取るなら、それだけで組織力は大幅に向上しそうです。

【今、何を考えるべきなのか？】

さて、社内の知恵の共有が急務でありながら、それがなかなか進まないとしたら、今、何をすべきなのでしょう。

現場の従業員の迷いを消し去り、皆が“他者の成功体験”を学ぶ環境を作るには、どんな工夫が必要なのでしょう。

【ご希望者にはレポートを差し上げます！】

そんな問いに“一つの答”を出す実体験をされた経営者がおられます。そこで、その経営者の体験を、簡潔にまとめたレポートをご用意しました。**定期購読(有料)希望者には詳細なレポートを毎月お送りします**ので、ご一報ください。



昨今の“激しい競争”に勝ち残るための“現場の知恵”が、なかなか共有されないケースがあるかも知れません。社内研修や特別の指導プログラムを作っても、“歯がゆい結果”に終わることも、少ないとは言えないでしょう。

しかし、それは“成果を左右する重要視点”を忘れてしまうからではないかという指摘もあります。その“重要視点”とは、社内見識の伝授や共有の“心臓”的な働きそのものだと言えそうなのです。

少数精鋭でビジネスに取り組む皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』にご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>

わたくしたちは、“ヒト”に関する重要課題の提言を通じて、皆様方の経営をご支援申し上げます！